

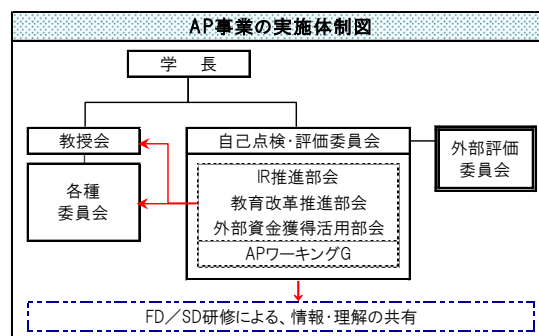
進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

- (1) Web シラバス・システムでの「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート) の活用が進み、特に **アンケート結果に関する学生へのフィードバックが、授業改善・学修改善の効果を高めている。**
- (2) 平成 27 年度から始めた新「(期末) 授業アンケート」が 4 年目を迎え、従前のアンケート結果とのさらなる比較が可能となり、**教員にとってより効果的な「授業の振り返り」が可能** となった。
また、Web シラバス・システム内の SIF (学生情報ファイル・システム) を通じて、教員の「学修成果別成績評価」、学生による「学修成果別到達度自己評価」ならびに各種学生アンケート結果等を学生にフィードバックするシステムが構築され、**学生にとっても「振り返りと気づき」を促す** 仕組みが整った。
- (3) 平成 30 年度には、過去 4 年間全学期の授業に関する「(期末) 授業アンケート」結果を集計・分析し、「授業改善効果」の検証を行った。その結果は、4 学科 1 専攻科にフィードバックすると共に、それらの結果を『教育課程改善レポート』としてまとめ第 8 回外部評価委員会に提出し、様々なアドバイスをいただき、更なる授業改善・学修改善に努めている。
- (4) Web シラバス・システム等の効果的な利用方法、および教育改革・授業改善の内容・方法等に関する共通理解を深めるための FD/SD 研修会を計 10 回開催し、**教育改革・授業改善の効率化・促進** が図られた。その具体的成果は、『平成 30 年度 授業改善事例集』にまとめた。

② 事業の実施体制

- (1) **学修成果の把握・可視化・定型フォームによるフィードバック等のシステム化が進み、学修成果の可視化に基づく PDCA サイクルをルーティン化する** 仕組みがほぼ整う。
- (2) **学修成果の可視化に基づく PDCA サイクルを回すための IR については、平成 29 年度に IR 推進部会の下に、各学科の IR 担当を置くことが決まり、平成 30 年度から稼働している。**
- (3) AP 事業に関連する対外的活動は、従前どおり AP ワーキンググループが対応している。



③ 事業の実施計画・継続性

【計画の実施状況】

Web シラバス・システムをプラットフォームとして、**学修成果を可視化し、教育の質向上と質保証のための PDCA サイクルをルーティン化**すると共に、教育の成果に関する情報公開を積極的に実施している。また「卒業生・就職先アンケート」や外部評価委員会で得られた指摘・アドバイスを各種改善に反映させている。

【体制的な継続性】

学修成果の把握・可視化・定型フォームによるフィードバック等のシステム化によって、極力省力化された体制を構築。加えて、(一社)学修評価・教育開発協議会に加盟することにより、学外との連携体制を構築・強化して事業の継続性・発展性を堅持している。

【資金的な継続性】

追加的な人件費の必要がなく、**極力省力化された体制**を構築している。

④ 事業成果の普及

(1) 学会への参加と発表

① 平成 30 年 6 月 9 日、6 月 10 日の第 40 回大学教育学会ラウンドテーブル(筑波大学)にて、本学の取り組みを紹介。

(2) 報告書の作成

① AP テーマⅡ選定 8 校、「テーマⅡ 学修成果の可視化」をまとめた共同実績報告書を作成。

② 『2018 年度 教育課程改善レポート～「(2015～2017 年度) (期末) 授業アンケート」に見る教育成果と課題～』、『平成 30 年度 授業改善事例集』を作成。外部評価委員会へ提出し、さらに本学 Web ページ上でも公開。

(3) 大学教育再生加速プログラム委員会発行のパンフレット『大学教育再生加速プログラム (AP)』(日本学術振興会 HP に掲載)にて、本学の取組が紹介される。

(4) 日本私立学校振興・共済事業団発行の『大学改革を成功に導く特色ある取組事例集』にて、本学の取組が紹介される。

(5) 各種アンケート調査等で収集されたデータの集計・分析結果に関する第三者評価を得るための「外部評価委員会」を年 2 回開催。

(6) FD/SD 及び各種アンケートの実施の際に、全教職員に対して AP 事業の趣旨を周知徹底。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

(1) Web シラバス・システムでの「(毎回) 授業アンケート」を活用しながら、学生へフィードバックすることで、**授業改善・学修改善の効果**を高めている。

(2) Web シラバス・システムでの「新入生アンケート」、「学修行動・生活調査」、「(期末) 授業アンケート」を実施することで、**短大における 2 年間の成長度合いを測るための基礎データを継続的に収集**している。

(3) 全ての授業において、「授業改善レポート」の作成をおこない、これらの事例を FD/SD 研修会にてフィードバックと共有をしている。また同時に『授業改善事例集』を作成し、継続した授業改善を実施している。

(4) 卒業生と就職先を対象とした「第三者アンケート」を実施している。

(5) Web シラバス・システムにおいてラーニング・ポートフォリオ機能の充実を行い、**学生のさらなる主体的な学びを促すための取り組み**を行っている。

(6) 「第 8 回・9 回富山短期大学外部評価委員会」を開催(注：年 2 回開催)することで、対外的説明責任を果たしている。